

ごめん — ありがとう

Care Joewono
インドネシア大学日本学科・三年生
July 30 - August 10, 2017

このプログラムに参加でき、本当に感謝しています。京都サマープログラム（KSP ASEAN）のおかげで、日本語の方言にたいする興味がさらに強くなり、卒業論文として完成させたいと思っています。日本にはインドネシアと同様にいろいろな方言があります。しかし、日本にある方言は、インドネシアにある方言と違います。なぜなら、日本の方言では標準語のアクセントとの違いがあっても、単語自体は同じです。この事実はとても面白いと思います。この二週間、別々の出身の京大生から、標準語だけでなく、関西の京都弁と大阪弁、三河弁、九州弁、名古屋弁、広島弁と、いろいろな方言を少しずつだけですが、学びました。

そして、京大生の皆さんに京都の観光地を案内してもらい、毎日新しい経験をしました。留学生たちが行きたいと言えば、京大生はやさしく連れて行ってくれました。この二週間、いろいろな人に会い、友達になりました。京大生だけではなく、ほかの東アジアのプログラムの参加学生も一緒に授業を受けていたので、彼らと日本語で会話を練習し、いろいろなことが話題になり、とても嬉しく思いました。それぞれに別の習慣、別の考え方、別の興味があるので、会話のときに常に新しい情報が得られました。これらの経験は全て京都大学のサマープログラムのおかげです。

授業内容は、インドネシアで勉強してきたことの復習が多かったのですが、会話の練習のパートでは楽しく学習しました。毎日別の京大生にペアになってもらい、会話の中で新しいことを勉強しました。午後の英語での授業はテーマを見て期待していましたが、台風によって、面白そうな午後の英語授業が中止になりました。翌日も、見学が中止になりました。インドネシアには台風がないので、新しい経験でした。東アジアのプログラムでは見学が台風よりも前の日に実施されていたので、うらやましく思いました。

京都はとても面白い所だと思います。学外研修の日は大阪・奈良・京都の3チームに分かれることを、昨年度のプログラムに参加した先輩から聞いていました。私は初めから京都を希望していました。京都のリーダーによる事前のプレゼンテーションが魅力的だったので、京都を希望する留学生が多数いました。大阪チームは大阪城に行き、箸作りを体験したようです。奈良チームは鹿と遊び、茶道を体験したようです。私が参加した京都チームは、宇治で和菓子を作ったあと、大阪まで移動して花火を見ました。インドネシアの留学生たちは別々のチームだったので、部屋に戻ってからそれぞれの経験を語り合いました。

このレポートを書いている今も、日本に来たこと、日本にいること、日本人・ベトナム人・タイ人・シンガポール人・中国人・韓国人と仲良くなり、共に十分に楽しんだことがまだ信じられません。夢のような生活だったので、毎晩寝る前に夢でなかった出来事を思い返すという毎日でした。先生方と京大生の皆さんのおかげで、来日から最後の日まで幸せでした。この二週間の経験は、この先も、私を向上させてくれることでしょうか。このような大切な思い出を築けたことにとっても感謝しています。皆が面倒を見てくれたことに対して申し訳ないとも思いましたが、ありがたいと思う気持ちのほうが強く、幸せに過ごすことができました。